

生方記念文庫 第3回企画展



パンの殿様

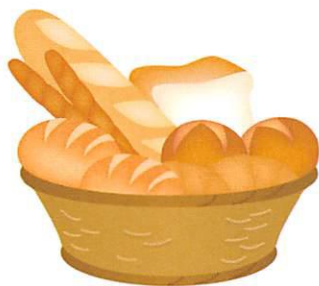
と き あきら 土岐章

～生方家の書簡から見た土岐家14代当主
土岐章子爵の沼田への思い～



章が大正13年（1924）に東京渋谷に建て沼田公園に移築された旧土岐邸洋館（生方記念文庫東隣に再移築中）

2020年
1/10（金）
▼
3/23（月）



土岐章子爵は、明治25年（1892）に旧沼田藩主土岐頼知の子として東京に生まれました。東京帝国大学で発酵学を学び、卒業後にパンの製造販売を試みた際に、木村屋などの日本のパン業界との繋がりを得ました。

章は無類のパン好きだったことから「パンの殿様」と世間から呼ばれました。

その後、ハチブドー酒を一手に販売していた近藤商会に入り、発酵学の研究の為、ドイツへ派遣されます。ワインやドイツ料理も好きでした。生方家に残された書簡をもとに、章の生涯と沼田への思いを紹介します。



土岐家14代当主土岐章子爵

生方記念文庫

〒378-0047 沼田市上之町199番地1 / TEL&FAX 0278-22-3110 / 開館時間 9:30-17:00 / 休館日 水曜日、1月14日（火）、2月13日（火）、2月25日（火）、3月19日（木）
/ 観覧料 大人110円（20名以上の団体料金60円）中学生以下は無料、障害者手帳等をお持ちの方および付き添いの方1名は無料。 / 主催 沼田市教育委員会





パンの殿様

と き あきら 土岐章

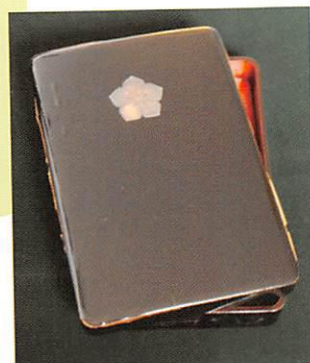
～生方家の書簡から見た土岐家14代当主土岐章子爵の沼田への思い～

土岐章は、大正8年（1919）3月から昭和20年（1945）3月までの間、沼田の児童生徒の奨学のため「土岐賞」を設け、学業優秀者に賞状と賞品の硯箱（戦時中に白扇に変更）を授与しました。当文庫所蔵の硯箱の他に、個人所蔵の賞状と賞品をお借りして展示します。

当文庫所蔵の土岐章から生方誠宛ての書簡は、封書58通、ハガキ43通、合計101通。その書簡からは、章の沼田への思いが伝わってきます。その思いを書簡と共に紹介します。

また、土岐家は東京に移り住んでからも、度々沼田の生方家を訪れていました。戦時中、糸之瀬村（現在の昭和村）に疎開した章夫人貞子のもとに、たつゑが自転車で差し入れに行っていたなど、生方家と土岐家の交流も紹介します。

2020年
1/10（金）
▼
3/23（月）



「土岐賞賞品の硯箱」

昭和16年、沼田尋常小学校（現在の沼田小学校）卒業時に生方美智子がうけたもの。
生方記念文庫所蔵

関連行事

(1) 2月1日（土）講演会 「生方家の書簡から見る土岐章と生方誠の交流」

土岐章の書簡を解説していただいた中村先生に、土岐賞のことなどお話をいただきます。

講 師 中村 厚子さん

時 間 午後2時から午後3時まで / 定 員 30名

場 所 生方記念文庫 / 参加費 生方記念文庫観覧料60円

(2) 2月15日（土）トーク&イーツ「ドイツのパンとスープ」

学芸員による展示解説の後、パン好きの土岐章にちなんだパンを、ドイツのスープと共にいただきます。茂木方子さんのパンと、後閑駅前のドイツ料理店「ドイツコーヒー夢」のスープです。

時 間 午後2時から午後3時

定 員 20名

場 所 生方記念文庫&旧沼田貯蓄銀行1階営業室

参加費 550円（但し生方記念文庫観覧料60円含む）



プレッツェル

※予約が必要です。電話または直接文庫窓口へお申込みください。



【交通のご案内】

バス JR 沼田駅 1 番バスのりば鎌田・戸倉方面（関越交通バス）
バス停 4 丁目上之町（6 分）下車

車 関越自動車道 沼田 IC から車で約 10 分

【駐車場】 旧沼田貯蓄銀行、天狗プラザをご利用下さい。

【お問い合わせ】 〒378-0047 群馬県沼田市上之町 199 番地 1
TEL&FAX 0278-22-3110 生方記念文庫